



「わたしは弱いときにこそ強いからです。」

コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章10節

暦の上では春を迎えました。厳しい寒さの中、桜の花芽や広葉樹の新芽が赤くふくらんでいます。寒さを過ぎて初めて春が来るのだと思います。

そうは言っても、寒さはこたえます。体温が低くなり、体力も落ち、怪我のリスクも多くなります。弱っている時はだれでも辛いもの！太陽の温かさにホッとします。そして、少し前よりたくさん身体を動かすようになった子どもたちはちゃんと寒さを感じているのだといつも感心しています。それに引き換え、大人は寒さに身も心もかじかんで、弱気になってしまうような気がします。

今月のメッセージ「弱いときにこそ強い」とは、どう考えたらよいのでしょうか。

はじめての事に緊張したり、自分とは違う人や意見に出会うと、怖くなったりするのは子どもも大人も同じです。「夢だったら良いのに！」…マイナスな事から逃げ、早く忘れたい私は、上手くいかない時に思います。苦しい思いは自分の心の中だけで消し去るのはとても難しい事です。

でも、誰かが気持ちをわかってくれたら、そしていっしょに歩んでくれたら、弱さを強みに変える事ができると思うのです。「ピンチをチャンスに」した、一例が「ピンクシャツデー」です。

それは…



「男の子がピンクのシャツを着た事でいじめられました。それを知った人が、みんなでピンクのシャツを着たら、いじめが無くなった」というカナダの出来事からはじまり、世界に広がった運動です。

YMCAでは全国のYMCAといっしょに2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」として「いじめ反対運動」を行っています。「いじめ」だけでなく、悲しみや悩みに苦しんでいる隣人に「友達になろう」と寄り添って行くことができる人になりたいと願っています。

2月26日(水)の「ピンクシャツデー」にごいっしょにピンク色の物を身につけられたらと願っています。
(園長 今井 世都)